

みちしるべ

日本福音ルーテル教会
九州教区女性会

発行代表者 岩切 晏世

編集者 財津 悠子

印刷所 ヤマダスピード製版

主題聖句

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」 ローマの信徒への手紙 12章15節

「助けて」と、言えますか？
 今、大人たちが「助けて」と言わなくなってきたり、といわれています。ですから子どもたちが「助けて」と言わなく、いや、言えなくなってきたりするのは、なぜでしょうか。「助けて」と言ったら、「何を甘えているんだ」「自己責任だ」と突き返されるからです。けれども、シンドイことがあつたら「助けて」と言っているのです。「助けて」は言いづらい一言かもしれませんが、けっして恥ずかしいことではありません。そして「助けて」くれる方は必ずおられます。

私自身も、「助けてくれる人は



「足がよろめく」時も

箱崎教会牧師

和田 憲明

「助けて」と言えただよ。『助けて』と言えただよ。助かった日だったよ。と、教えてもらいました。

ある人が人生に行き詰まり、最後の始末まで自分でつけようとしていた最中倒れました。そこへ、だれかが救急車を呼んでくれ、その後、親身になってくれる数々の人に出会います。その人は「助けて」と言うことのできる、新しい生き方を知ったのです(『もう、ひとりにさせない』奥田知志著、いのちのことば社参照)。

聖書に、「足がよろめく」とわたしが言ったとき主よ、あなたの慈しみが支えてくれました。わたしの胸が思い煩いに占められた

とき、あなたの慰めが、わたしの魂の楽しみとなりました(詩編94編18、19節)とあります。著者は祈りが聴かれた後に祈り、信仰者としての救いの体験を告白します。これを聴いた会衆はどんなに励まされたことでしょうか。

さて女性会は、時代の流れとともに様々な局面を迎えています。今までどおりにできることも、できないこともあります。互いに助け合い、主のもとに慰めと避け所を見出すことのできる会だと証ししたいのです。



18期の教区女性会担当牧師は、和田憲明先生です。よろしくお願いたします。